

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

三高プライドを持ち、未来の社会を担うことができる人財を育成する。

(三高プライドとは…三高スタンダードを身につけ、何事にも主体的に取り組み、他者と共生できるしなやかな心を表す)

各学校で定める目標と育成する資質・能力

教科横断的な学びである課題探究と、自分らしい生き方と社会を関連付けながら、主体的に自己の進路を切り開いていくキャリア探究を重視することにより、未来の社会を担う人財として必要な5つの力である「三高スタンダード」を育む。

- (1) 地域や社会に関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識を身につけるとともに、他者との関わりや協働によって支えられていることに気付く。
(2) 地域や社会と自己との関わりから問いを見だし、その解決に向けて情報を分析し、論理的にまとめ・表現する力を身につける。
(3) 地域や社会についての探究活動に主体的・協働的に取り組むことで、社会に貢献できる人財を育成する。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・「総探」委員会、学年会議で学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。
・中間及び最終発表の状況、協働した資料等を評価の対象とする。
・生徒が自身の活動について、学習活動毎にリフレクションシート、学期毎にルーブリックを用いて振り返りを行う。
・レポート、ポートフォリオ等を用いて、生徒の主体的な活動の実践について、年度毎に学年末に多面的・総合的な視点で評価する。

生徒の実態

- ・ハブステーションに近く、県内の広い範囲から入学してくる。
・真面目で素直な生徒が多く、7割以上が大学進学を希望している。
・部活動加入率も高く、運動部・文化部ともに活発である。
・近年、男子の入学者も増加している。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・個々の生徒の困難さに応じて、学習内容の提示の仕方や進め方等を工夫する。
・複数の教員で指導にあたることで、生徒の実態を丁寧に把握し、よりよい学習活動が展開できるよう、適切な支援を行う。

目指す生徒の姿

高校3年間をとおして、三高スタンダードを身につける生徒を育成する。三高スタンダードとは、「身につけたい5つの力」を意味する。

- ①知力・知識力 ②思考力・探究力 ③協働力 ④コミュニケーション力 ⑤自己実現力

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

○1年[自分を知り、社会を知る]

- ・自己・社会 → 「絆プロジェクト」「職業探究」「身近な課題」「進路発見探究」

- (1) 自己や社会についての知識・理解を深める。
(2) 自己や職業について整理分析して、他者へ表現する力を育成する。
(3) 自己や職業についての価値を理解しながら、主体的・協働的に探究活動に取り組む。

○2年[自分と社会の関わりを考える]

- ・地域・社会 → 「地域探究」「平和探究」「自由探究」

- (1) 各地の文化や伝統、自然等についての知識を深める。
(2) 各地の問題点に着目し、より良い解決に向けて、情報を分析・まとめ・表現する。
(3) 各地の良さを活かしながら、主体的・協働的に探究活動に取り組む。

- ・進路 → 「進路探究」

- (1) 自己の進路について必要な知識・技能を身につける。
(2) 各分野について調査・分析し、相手や目的に応じて表現する力を身につける。
(3) 自己の進路に関して、主体的・協働的に探究活動に取り組む。

○3年[自分が関わるこれからの社会をどう創っていききたいかを考える]

- ・進路 → 「社会を担う人財の視点で自分の進路を探究する」

- (1) 自己の進路についての知識を深め、社会を担う人財として必要な知識・技能を身につける。
(2) 地域や社会と自己の関わりから見いだした課題について、調査・分析し、まとめ・表現する力を身につける。

学習活動、指導方法等

○学習活動

- ・1、2、3年それぞれ週1時間を配当する。
・パフォーマンス課題に取り組む。
・課題探究学習
・キャリア探究学習
・外部講師による講演会
・発表会(グループ、クラス、全体、etc)
・大学訪問、事業所訪問、etc
・探究ワークショップ

○指導方法

- ・「逆向き設計」によりカリキュラムを設計し、7点を重視した指導を実施する。
・レポート提出、発表の機会を適切に設ける。

[重視する7点]

- ①Where(場所) ②Hook(関心) ③Equip(評価) ④Revise(復習)
⑤Self-evaluate(自己評価) ⑥Tailor(個に応じた) ⑦Organize(組織)

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- ・全体計画・年間計画は、教務部、学年担当者により編成した「総探委員会」を中心に作成する。
・各教科、各分掌の協力を得て、学年担当者を中心に各学年団で実施する。
・各教科・科目で得た知識・技能を教科横断的に活用する学びをとおして、実社会で活用できる汎用的な能力を育む。また、様々な体験をとおして経験を積むことにより、学びの意義を認識させ、学習意欲の向上を図る。
・地域を学ぶ活動をとおして、教育内容や教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部資源も含めて活用し、教育目標を社会と共有しながら連携し、実現する。
・持続可能な地域社会の創生に向け、大学等の上級学校や企業と連携する。